

繰り返す下気道感染の増悪に対して手術を行った Swyer-James
症候群の 1 例

著者:

成田 茜衣¹⁾、百瀬 匡¹⁾、高田 宗武¹⁾、三澤 賢治²⁾、三島 修²⁾、中西 正教¹⁾

1)相澤病院呼吸器内科 2)相澤病院呼吸器外科

和文要旨：

24 歳男性。3 歳時に肺炎の既往、20 歳時に気胸の手術歴がある。
24 歳時に下気道感染増悪を契機に Swyer-James 症候群と診断された。嚢状気管支拡張内膿瘍を認め、抗菌薬治療抵抗性を示し、就労に支障を来し手術の方針となった。CT 上透過性亢進を示す部位の切除（左 S¹⁺² 区域切除+S⁶ 部分切除）を施行し、その後、現在まで感染再燃なく就労継続も可能となっている。

キーワード：

Swyer-James 症候群 (Swyer-James syndrome)、反復性気道感染 (recurrent respiratory infection)、外科的治療 (surgical therapy)

短縮タイトル：

Swyer-James 症候群の一手術例